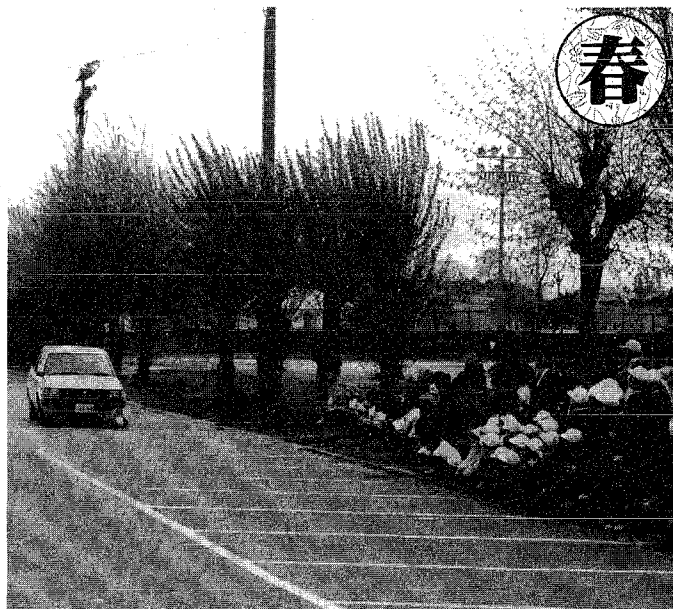


# 春の交通安全

## ▶子供を 交通事故から守ろう◀



▲昨年の交通安全教室の様子“とび出しは、あぶない”

新入学園児をおもちの家庭では、お子さんが4月から学校や保育園に行く日を指折り数えられていることと思いませんか。そのため、準備に何かと忙しいところですが、忘れてはならないのが、交通安全の教育です。交通事故に遭わないために、何に注意しなければならぬか、お子さんに教えてあげてください。幼い子どもは、防ごうとすることができ

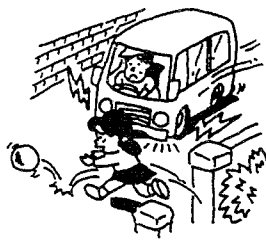
ない災害とは違い、親の保護と教育で避けることができず。正しい道路の渡り方や信号の見方、道路でしてはいけないことなどを、お子さんに説明してあげてください。そして、天気の良い日を選んで、実際に一緒に歩いてみて注意しなければならぬことを教えてあげてはいかげしょうか。

### 幼児の特性

行動・精神面から見ると

1 ひとつのことに夢中になると他のことは一切目に入らない。

例えばボールを追いかけて道路に飛び出してしまいうも子供にしてみればボール遊びが道路まで延長したにすぎないのです。



2 気分によって行動が大きく変わる。

幼児は気分の変化が激しく、それにつれて行動も変わります。うれしいことや悲しいことがあると、そのことで頭が一杯、他のことは考えられない。そのときどきの気分で行動はクルクル変わります。



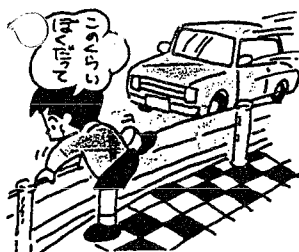
4 物事を単純にしか理解しない。

幼児は物事を単純に理解しています。手をあげれば、車は何時でも、どこでも、必ず止まってくれるものと思ってしまう。



3 大人のまねをしたがる・大人に依存しがち。

良きにつけ、悪きにつけ大人のまねをしたがります。ですから、周囲の大人、特に母親が手本を示すことが大切です。また、そばに大人がいると、自分で判断しようと思わず大人に頼ってしまいます。



5 物かげで遊びたがる傾向がある。

幼児は空地や公園でも隅の方で遊んだり、物かげに隠れたり、車のそばで遊んだりするのが大好きです。



## 春の火災予防運動

4月1日～7日

春はとくに空気が乾燥し、風の強い日が多いことから、たき火、たばこの火の始末に注意するとともに、家庭においては消火器、簡易型火災警報器、ガス漏れ警報器などの備え付けや点検を行ってみてください。

月潟村では、平成4年3月以降無火災が続いています。今後ともこの記録を延ばせるよう一人ひとりが次の「七つのポイント」を注意してください。

- 一、寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 二、子供には、マッチやライターで遊ばせない。

- 三、風の強いときは、たき火をしない。
- 四、天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
- 五、家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 六、ふろの空だきをしない。
- 七、ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

万一、火災が発生すると、問い合わせ電話が役場に殺到し大混乱します。火災の際の問い合わせは、役場にかけないで、白根地区消防署のテレホンサービス、「373-3400」を利用されますようお願いいたします。

## 安心の暮らしの中心 火の用心



別府庁・日本消防協会・新潟県消防協会

月2回の学校週5日制の実施

## 今年の4月から学校が 第2土曜日に加え第4土曜日 も休業日となります

平成7年4月から、月2回の学校週5日制が実施されることになりました。これにより、第2土曜日に加え、第4土曜日も休業日となります。対象となるのは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校および盲・聾・養護学校の各学校。同制度実施に先立ち、月2回の学校週5日制をご理解いただくために、皆さまから寄せられた不安や疑問にお答えします。

**Q1** この制度の目的は？ また、なぜ学校週5日制を月2回にしなければならないのですか。

**A1** 学校週5日制は、学校、家庭および地域社会の教育全体のあり方を見直し、子どもたちの豊かな人間形成を図ることを目的としています。激しい変化が予想されるこれからの社会においては、子どもが自ら考え、判断し、行動する力を身につけさせる教育が大切だからです。また、休みを月2回に拡大することは、全国642校で実験的に行った研

究結果からみて、子どもたちの望ましい人間形成を図るうえで、好ましい結果をもたらすものと考えられたからです。

**Q2** うちの子どもは、休みが増えて遊んでばかりいますが、これでは意味がないのでは？

**A2** こどもの成長に遊びは欠かせません。なぜなら、子どもたちは遊びを通して、さまざまなことを発見し、作りだし、体験を重ねるからです。

**Q3** 塾通いをする子どもが多くなるのではないかと心配です。

**A3** 月1回の週5日制実施時にもこうした心配はありましたが、文部省の調査では塾通いが増えたということはありません。増えた休みを、子どもたちには有意義に使ってほしいと考えています。